

2025 年度 市民活動センター運営協議会（第 1 回） 議事録

■日 時：2025 年 6 月 4 日（水）19:00～21:00

■会 場：プラッツ 6 階 第 1 会議室 B

■参加者：

委員：駒ヶ嶺 久美（副委員長 府中市市民協働研究会）

西郷 匠（府中動画配信部）

進藤 美津江（市民活動コーディネーター卵の会）

関根 正敏（委員長 中央大学商学部 准教授）

藤原 ちひろ（明治安田生命保険相互会社 武蔵野支社 府中中央営業所 営業所長）

藤原 美江（府中童謡の会）

松木 紀美子（府中市自治会連合会総務部）

福嶋 史江（府中市協働共創推進課課長）

橋本 薫（府中市市民活動センター プラッツ施設管理課長）

林 丈雄（府中市市民活動センター プラッツ館長）

事務局：兒嶋、高橋、道具

オブザーバー：加瀬、小池、徳吉（府中市協働共創推進課）、

春山（府中市市民活動センタープラッツ）

（敬称略）

■次第

1. 開 会

2. 挨 拶 関根委員長挨拶。

3. 自己紹介 異動により 3 名の委員の変更があったため、改めて委員全員で自己紹介を行った。

4. 議 事 進行：関根委員長

（1）今年度の運営協議会の進め方について

前年度提案された3つのテーマ（「大交流会のあり方」「コーディネーターの役割など」「集客」）を、今年度の3回の会議にてそれぞれ協議することと、本日は「大交流会を成功させるためのポイント」について協議することが諮られた。また、本日の内容によっては、継続審議も検討したり、3つのテーマを大事にしながらディスカッションしていくことが確認された。

（2）大交流会のあり方について

①まず、事務局からプラッツが企画している 1 月 31 日に実施予定の「大交流会（案）」について
目的や内容、ゴールなど、企画書（案）をもとに説明を行った。

②3 グループに分かれ、大交流会を成功させるポイントについて協議し、発表を行った。

○グループ1（藤原ちひろ、西郷、林、小池、児嶋）

- ・タイトル案検討「おとしどころのない会議」「府中盛り上げ会」「異業種交流」「仮面交流会」
- ・テーマを決めた方が、参加者に声かけやすい。そのテーマは、府中市が市民から拾い上げたい声をテーマにすると様々な声を聞くことができるのではないかな。総合計画などがそれにあたる。
- ・総合計画の全てのテーマに関わる広報戦略も追加すべきテーマではないかな。様々なメディア、チャンネルが集まる大メディア会議ができると面白いのでは。
- ・同時に、受信力アップも課題。
- ・企業同士の情報交換の機会は少ない。各企業のコンテンツを提示し活かす場になるとよい。
- ・運営については、2部制で、1部は仮面交流会として所属にとらわれず個人で自由に発言できる機会とし、2部は名刺交換など所属を明らかにし交流するのはどうか。カフェスタイルが良い。
- ・話題カードでテーマ（広報、環境、子ども、教育、産業 etc.）を提示し、興味のある人同士が交流するなど。
- ・大交流会は継続的に開催するのが良い。この会をきっかけに分科会として活動が続けるなどができるとうい。また、その活動を次年度の大交流会で発表する（ビジコン的要素）なども面白いのでは。大交流会をドキュメンタリー風に動画に残すなどもありか。

● グループ2（福島、藤原美江、駒ヶ嶺、春山、道具）

目的・方針：

- ・助け合える「WIN-WIN」の関係作り。
- ・特に、異なる分野間（例：企業、ソーシャルビジネス事業者等）での連携を進める。

事前準備の工夫：

- ・つながるために参加したくなるキーワードの開発
- ・企業参加のためメリットの可視化や呼びかけ
- ・テーマを事前に募集する
- ・申込時に「できること」「困っていること」「団体名」を聞き、HP等で事前に発信する
- ・「できること」「団体名」を両面カードにし、対面時のつながるきっかけとする
- ・どういう情報等を持って帰れたら嬉しいのか検討する

交流方法：

- ・自己紹介カードや名刺に「できること」「困っていること」「連絡先」等を明示し、交流のきっかけとする。
- ・小規模グループから始めて大きいグループにしていく方法やテーマごとの分科会形式。
- ・アイスブレイクにはゲーム要素を取り入れたり、ゲストスピーカーの同時多発的にコメントする参加者が主体的に関われる仕掛けも検討。

最終的なゴール：

- ・“カップル成立”（団体間マッチング）したら「やること宣言」を発表。

● グループ3（進藤、松木、橋本、徳吉、高橋）

基本方針：

- ・参加者が「来てよかった」と実感し、少なくとも一つは有益な持ち帰りがあるイベントにする。
- ・参加は1団体2名以上を原則とし、交流や振り返りのしやすさを確保する。

交流形式の多様化：

- ・ワールドカフェ方式（途中でグループシャッフル）
- ・団体ごとにプラカードを持ち入場（甲子園方式）
- ・お見合い方式によるマッチング
- ・グループでの共同アクティビティ（料理・ダンスなど）
- ・地域菓子の持参による話題づくり

不安への配慮と解決策：

- ・孤立団体を防ぐため、各テーブルにファシリテーターを配置し、会話を促進。
- ・会場導線やスケジュールに工夫を凝らし、偶発的な出会いが生まれやすい設計を検討。
- ・交流の継続性確保のため、半年後のフォローアップ交流会や中間報告的な機会を設け、関係性の深化を図る。

その他提案：

- ・団体PR資料の掲示や、成功事例・ノウハウの共有を通じて学び合える空間を構築。
- ・ハブ的な団体が連携の軸となり、各団体をつなげていく役割を担うなどの提案もあった。

■ 総括・振り返り

- ・今回の「大交流会」のテーマ内で話していても「広報」や「コーディネート」の話も出ている。継続審議としてもいいかもしれない。一体感を持って頑張っていきましょう。

5. 閉 会

【今後の予定】

- ・第2回運営協議会 2025年10月1日（水）19:00～21:00
- ・第3回運営協議会 2026年2月5日（木）19:00～21:00